2024 年度　部局 FD 活動報告

現代システム科学域・現代システム科学研究科

1.　各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

・現代システム科学域 FD 会議（実施責任者：学域長），現代システム科学研究科教学アセスメント実施委員会（実施責任者：研究科長）を設置し，アセスメントリストにおける年次点検評価を行っている。

・現代システム科学域・研究科の教務委員会において FD に関する議題を取り上げ、教務委員会全体として、学域・研究科の FD 活動を推進している。

・各学類会議にて，FD 関連事項を全教員に共有している。

2.　教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数
2024 年 6 月 20 日	第 1 回現代システム科学研究科交流研究発表会 黒田桂菜（環境共生科学分野） 「海とひとが共生する社会とは？多様なアプローチを通して身の回りの魚や海藻をみつめる」 吉川丈（環境共生科学分野） 「Penalties for Social Concern in a Bilateral Monopoly」	58 名
2024 年 7 月 18 日	第 2 回現代システム科学研究科交流研究発表会 住友陽文（人間科学分野） 「変革期としての「大正」――“密造”される共和主義――」 田村徳子（人間科学分野） 「ブラジルの校長直接選挙――教職員、保護者、児童生徒で校長を選ぶことの意味――」	53 名
2024 年 11 月 21 日	第 3 回現代システム科学研究科交流研究発表会 山野 則子（社会福祉学分野） 「基礎研究から実装研究への道：学際性とその困難～子ども家庭福祉領域における研究」	27 名
2024 年 12 月 25 日	第 4 回現代システム科学研究科交流研究発表会 花村周寛（環境共生科学分野） 「まなざしのデザインから総合知を考える」	21 名
2025 年 1 月 23 日	第 5 回現代システム科学研究科交流研究発表会 上柿崇英（人間科学分野） 「環境哲学から見る人間存在と人間の未来について」	31 名

3.　教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催

会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（＊月＊日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
研究科教学アセスメ	第 1 回 10 月 3 日　教学アセスメントにおける年次点検評	8 名

ント実施委員会	価報告について説明を行った。 第 2 回 11 月 7 日　教学アセスメントにおける年次点検評価報告について分析結果の報告を行った。	
学域教務委員会	毎月 1 回の定例の委員会の中で、学域独自の FDC や PBL についての現状や課題を共有し、その都度必要事項について協議した。	9 名

4.　上記以外の教育改善・FD に関する取組

・後期開講の学域共通科目「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」の 4 科目では、授業の最終回（第 15 回）において、各科目の担当者が対談形式で講義を行うことで、各学類や各教員の専門性のみにとらわれず、科目間のつながりやカリキュラム全体について意識するように促した。

・大学院博士前期課程「現代システム科学特別演習 1」「現代システム科学特別演習 2」において、他の教員が指導する大学院生のポスター発表を聞き、異なる専門分野の視点からコメントを行うことにより、自らの研究指導や講義を改善するための機会を提供した。

・本研究科に在籍中の大学院生に対して「大学院授業内容に関するアンケート」を実施し、その回答を第 10 回研究科教務委員会（2/27 開催）において検討した上で当該分野・当該科目担当教員らへのフィードバックを行なうなど、大学院授業改善のための参考とした。（アンケート実施期間：2025 年 1 月 6 日～2025 年 2 月 21 日。）

5.　年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数［実数］（必ずご記入ください）

・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数　　（学域：92 名、研究科：85 名 ）人

・所属内の専任教員の人数　　（学域：92 名、研究科：85 名）人

6.　その他、追記事項